

「海洋生物多様性の把握に関する科学的ニーズと 先端計測技術シーズとの邂逅」ワークショップ（仮） 開催趣意書

独立行政法人 科学技術振興機構
研究開発戦略センター 計測技術に関する横断グループ

1. 背景と目的

独立行政法人科学技術振興機構（JST）研究開発戦略センター（CRDS）は、科学技術に求められる社会的・経済的ニーズを踏まえて、国として重点的に推進すべき研究領域や課題を選定し、そのファンディング戦略を明確にするための活動を行っております。計測技術に関する横断グループでは、今年度、「海洋生物多様性の把握」を目的として、海洋科学、水産科学等における未解決の科学的ニーズを探索するとともに、そのニーズを充足する先端計測技術の研究開発戦略の検討を行っております。

（海洋生物多様性の把握）

我々は食物や資源など、海洋から多くの生態系サービスを得て豊かな生活を送っています。このサービスは、海洋生態系のバランス、そして関連する物質循環サイクルの健康度に依存していますが、現在、多くの地域で気候変動、水質汚染、乱獲、生息域破壊、侵略的な生物種の持込みなど、外因的なインパクトに脅かされ、また、その状況を正確に捉えているだろうか、との指摘があります。したがって、「海洋生物多様性の把握」は、生態系の健康度、管理等海洋政策の適正さを評価する上で重要であり、これを観測・モニタリングする手法の高度化、極限化、普遍化は、科学技術に対する大きな期待となっています。

（ニーズとシーズの邂逅）

CRDSでは、2011年3月に発行した調査報告「科学における未解決問題に対する計測ニーズの俯瞰調査」¹において、「計測は科学の母（mother of science）」と位置付け、新しい計測技術の創出には、計測ニーズと技術シーズの邂逅がポイントであることを示しております。今回開催するワークショップでは、海洋生物多様性の把握に関する計測ニーズを体系的に整理し、これをメジャランド（測定可能な物理量）として設定することで、先端計測技術開発の可能性を検討致します。さらに次のステップで実行に向けた推進方策のあり方等について議論する予定であります。

2. オーガナイザー

吉川 弘之 JST 研究開発戦略センター センター長

兼 同センター 計測技術に関する横断グループ 総括

3. モデレーター

佐藤 勝昭 JST 戦略的創造研究推進事業さきがけ

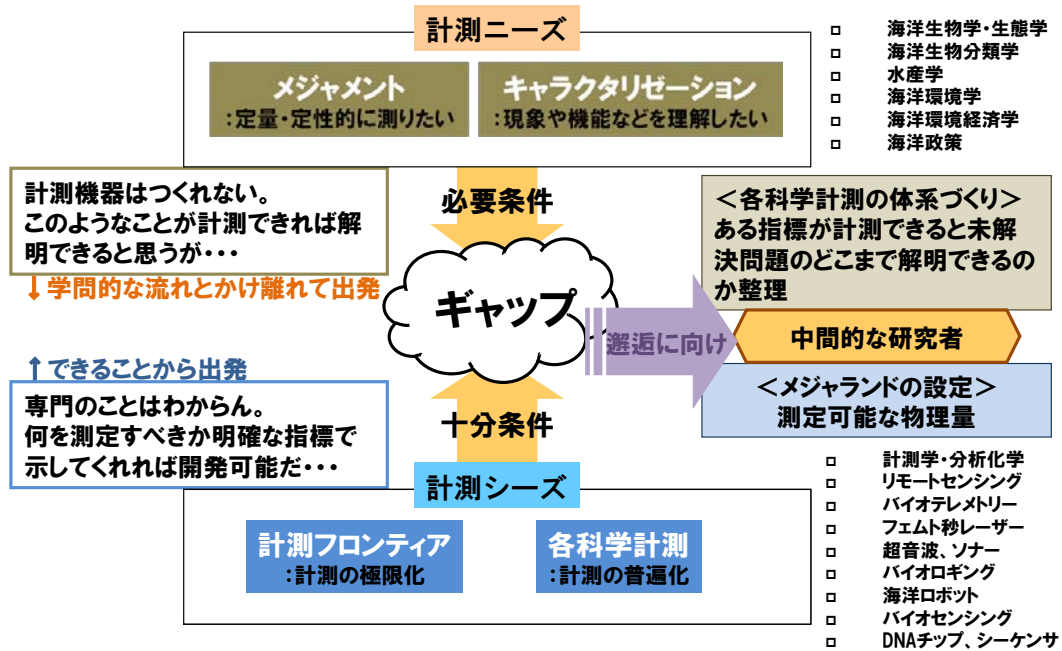
「革新的次世代デバイスを目指す材料とプロセス」 研究総括
兼 研究開発戦略センター 計測技術に関する横断グループ フェロー

¹ 参照：調査報告「科学における未解決問題に対する計測ニーズの俯瞰調査」（2011年3月発行）科学技術振興機構/研究開発戦略センター <http://crds.jst.go.jp/output/pdf/10rr01.pdf>

4. 期待するアウトプット

- (1) 海洋科学、水産科学等における「海洋生物多様性の把握」に関する未解決の研究課題と優先度の高い計測ニーズ
- (2) 「海洋生物多様性の把握」に関する計測ニーズの体系的整理とメジャランド（測定可能な物理量）の設定
- (3) 「海洋生物多様性の把握」に資する先端計測技術開発の可能性

ニーズとシーズの邂逅プロセス



5. ワークショップに関する情報取り扱い

ワークショップ当日の情報・著作物の取り扱いについて、別に定める原則に基づき運営することとしております。ご参加の際は、ご理解いただきますようお願いいたします。

6. 日時・会場

日時：平成 23 年 12 月 19 日（月曜）13:00-18:00（終了後、懇親会を予定※会費制）

会場：（独）科学技術振興機構 東京本部別館

東京都千代田区五番町 7 K's 五番町 2 F 会議室 A—②

地図：次頁